

日新/DUR-S8形 可動コイル形不足電圧継電器

本器は、直流回路の不足電圧保護を目的とする可動コイル形の継電器で、回路の電圧が継電器の整定値より低下したとき即時に動作します。

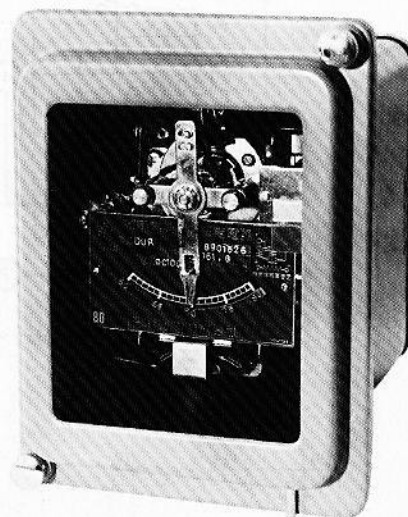


図1 DUR-S8形 可動コイル形不足電圧継電器(固定形)

■ 定 格

形 式	定 格	整 定 範 囲	補 助 継 電 器	備 考
DUR-S8	各 種	定格電圧の60~80%	A.C. 110Vまたは D.C. 100Vまたは48V	固定形または引出形

注) 1. 重量は約4.1kgです。
2. 定格300V以上の場合には倍率器を外付します。

■ 構造と動作

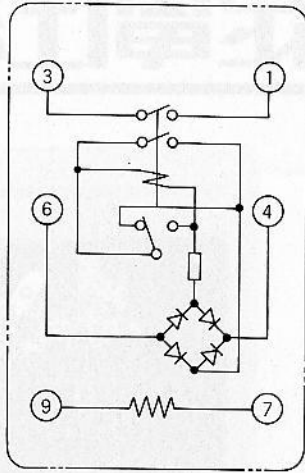
本器は、可動コイル形の原理に基づくメータ・リレーの構造で、永久磁石の両極間に置かれたコイルが円柱鉄心の周辺を回転しうようになっており、このコイルに回路の電圧に比例した電流が流れると永久磁石による磁束と鎖交するためトルクを生じますが、不足電圧動作とするためこのトルクを制御トルクとし、スプリングによるトルクを動作トルクとなるよう構成します。すなわち可動コイルは、倍率器を通して回路に接続されているため回路の電圧に比例した制御トルクが生じており、平常状態では、可動トルクに流れる電流と永久磁石の磁束によって生ずる制御トルクはスプリングのトルクに打ち勝って接点を閉路していますが、電圧が整定値より低下すれば制御トルクが減少し、スプリングの動作トルクがこれに打ち勝って回転して可動軸上に設けられた主接点を閉路します。

固定接点はレバーにより動かすことができるようにな

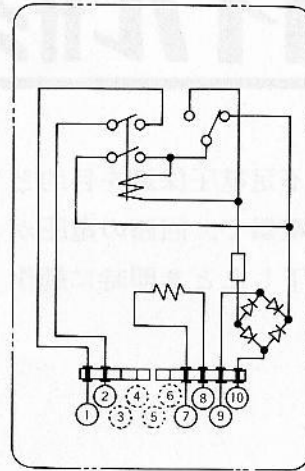
っており、目盛盤上の任意の電圧値に整定することができます。整定範囲は定格電圧の60~80%です。

主接点には動作側、復帰側に接点を設けており、さらに補助継電器を内蔵して第2図のような回路を構成しています。端子1は制御電源+側へ、2は操作回路へ接続します。

主接点が動作すると1-3間に電圧が印加され、補助継電器が動作・自己保持し1-2間を閉路、所定の動作を行ないます。一方主接点が復帰し復帰側の接点を閉路すれば、補助継電器は短絡されて無励磁となり1-3間を開路します。したがって主接点によって接点回路の電流を開閉することなく、また外部回路で補助継電器の自己保持を解く回路を構成する必要はありません。このため主接点を懸念することなく、いかなる回路への適用もきわめて容易であり、特に制御継電器として使用できる特長をもっています。

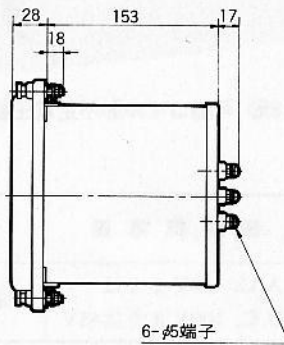


固定形 (裏面)

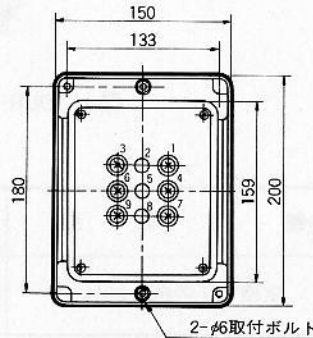


引出形 (正面)

図2 内部接続図



6-φ5端子



2-φ6取付ボルト

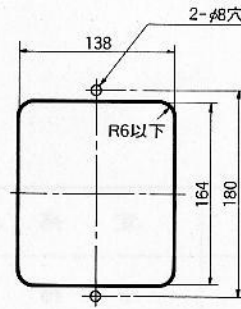
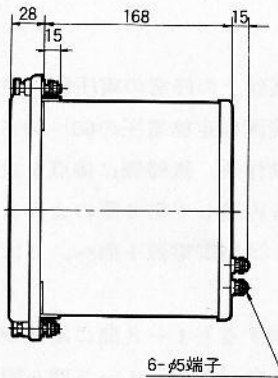
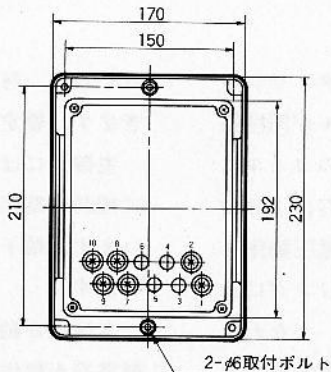


図3 固定形 外形寸法図



6-φ5端子



2-φ6取付ボルト

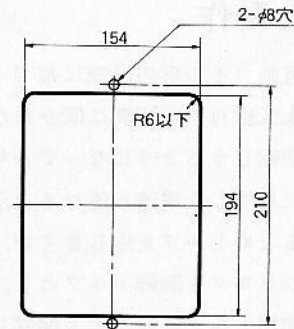


図4 引出形 外形寸法図

——ご注文に際しては次の事項をご指定ください——

1. 形 状：埋込形，引出形の別
2. 定 格：_ V，整定範囲 _ V ~ _ V
3. 制御回路：制御回路電圧
4. その他：標準外仕様がある場合